

象と鯨の綱曳

東京女子高等師範學校附屬幼稚園研究部

お山の中で一等大きい強い象は誰か自分の相手

になつて遊んでくれる獸がほしくて堪りません毎日毎日『誰か力一ぱいに相撲をとるやうな獸がなにかしらんウンと力を出して綱引をされるやうな者はないかしらん、熊だつて一押で轉んでしまし狼や兎なんか一本指で一寸さはつてもころげてしまふし』と云ひながらお山の中をすた／＼歩いて見ましたが中々よい相手がありそうでもありません。

『つまり今日は一つあつちの方にいつて見やう』

と思ひながら海に近いお山の方に來りました。

『お、廣い海だ、いゝ景色なこと』

と云ひながら眺めて居りますと脚元の方で

『象さへ、象さん』

と云ふ聲が聞へます、何だろうと思つて見ますと小さな龜です。

『おや／＼誰だと思つたら龜さんか』

『象さんいゝお天氣ですね、今日は珍らしくこゝらのお山にお出になりましたね』

『えゝ山に居てもちつとも遊び仲間がないからこの邊にブラ／＼來て見たんです』

『おや！ お友達がないんですつて、お山には澤

山獸のお仲間があるじやありませんか』

『いやあるのはあるが、あつたつて仕様がな、

みんな私よりも弱いですもの力一ぱい相撲をとろうと思つたつてとれるやうなものはないし、

綱引しやうつたつて相手になるやうなものな

いんですもの』

『ほんとにさう云へばそうですね……』

『龜さん誰が知らないかね』

『え……さうですなえ……龜さんいゝ事がありま
す私いゝ事をして上げませう』

『いゝ事がある、それは一體何ですか』

『あなた、あの海に居る鯨を御存じでせう』

『えゝ知つてる、大變大きい、あのお魚の形をし
て潮をふくものでせう』

『えさうです、私があゝの鯨さんをよく知つて居ま
すから、鯨さんの所にいつてよく話しましてそ
してあなたと綱引をする相手になつて貰ひませ
う』

『それは面白い、あれならば大丈夫だ、よろしく
頼む』

龜はそれじやと云ふので大急ぎで山を下りて海
邊から海に入つて泳いで鯨の所へ來ました。

『鯨さん今日は、いゝお天氣で』

『おゝ龜さんかよく來ましたね』

『鯨さん今日は御頼があつて參りました』

『そうですか、それは又どんな事です』

『鯨さん貴方は象を御存じでせう』

『知つて居るとも、あの鼻の長い大きい體の獸で
せう』

『その象がね、あなたと綱引を仕度いと云ひます』

『それは又面白い事だ、どうしてそんな事を云ふ
んです』

『まあお聞きなさい、かうなんです、私が今日あ
の向うに見えるお山の方に散歩にまゐりますと
象が、やつぱり散歩して居ましてね、お山の方
はさつぱり自分とお友達になつてくれるやうな
大きい強いものはないからつまらないから誰か
探して呉れと云ひます、それで私が鯨さんに頼
んで來ませうと云つて來ました譯です』

『それは面白いゝ、實は私もねいつともさう思つて
居たんです、この海は廣いけれどもお前が知つ

て居る通り中々私の相手になるやうな強いものは居ないからね：象と綱引とは、ほんとにおもしろい、どうか早く頼むよ』

そこで鯨は成るだけ岸の近くまでまゐりました象も山を下つて海岸まで来りました、龜は大急ぎで海邊の學校から綱を借りて参りました片方は海の中の鯨に一方は山の上の象に持たせて自分は丁度真中を足でおさへて、

『用意!』と大きな聲で云ひますと、

兩方とも綱をしかつり持つて、

『ウン』

と脚に力を入れて用意をした

『一、二、三!』

と云ふ相圖に

『エツサム、』

『オー』『エス』『…』『…』

一生懸命に引き出しました、兩方とも眞赤な顔になつて汗びつしより

『オー』『エス』『…』『…』

中々強くつて勝負がつきそうにもない、その中象が

『ウーン』

と一つ力を入れますと、ぐつと鯨を引つぱりました。

『止め!』象の勝、萬歳!

『それぢや、もう一度』

『用意』兩方よろしい』

『一、二、三!』

『オー』『エス』『…』『…』

鯨は今度こそと力を入れてウンと一生懸命です、象も負け度くない兩方とも『オーエス』『…』その中鯨が『ウン』と一力入れました。

『ヤメー』鯨の勝、鯨さん萬歳!

『おゝつかれた、こんなに力を出した事はない』

『おゝおもしろかつた力一ぱい引きぱつてほんとに氣もちがよかつたこと』

『兩方一度づつ勝つたんですから今日は之でよしませう』

龜は兩方に申しました。

『象さんどうも有り難う龜さん御苦勞様』

『どうも龜さん有り難うほんとに面白かつた、鯨

欲ばり王様

或處に大變欲の深い王様がありました、立派な御殿の中に住んで立派な着物を着て立派な寶を澤山持つて、何も不自由はありません、けれども王様はまだ足りません、もつとく澤山に金が欲しくてたまりません。そこで、

『自分が手ではりますものは、みんな金になりますやうに』と神様にお願ひいたしました。神様は『よし〜お前の望み通りにしてやる、あしたの朝からお前の手のさはるものは何でも金にしてやる』

さん中々面白かつたね、またいつかしませう』海と陸とで大きな聲で話をして皆大よろこびをいたしました、そして象はお山に鯨は沖の方に歸つて行きました。(をばり)

とおつしやいました、王様はうれしくてあしたの朝を待ちかねて床にはいりました。愈あしたの朝になると王様は早くおきました、そしてうれしくてく〜たまりません、先づ着物をきかへやうと思つて着物をとらうとしますと眞白のお洋服がピカツと光つて見る間に金になつてしまひました、『まあ何とうれしいことだらう金の着物をきて』大よろこびで今度は顔を洗はうと思つてかなだらいにさはりますとまたピカツと光つて金になりました。